

令和5年度 学校評価  
自己評価及び学校関係者評価

学校名	坂戸市立南小学校
実施日	令和6年2月1日

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員会評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	南小評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明(感想等)
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	A	○校長の学校経営構想デザインが職員に周知され、職員会議や学校だよりでその取組、進捗について確認されている。 ・保護者評価「学校教育への満足度」項目AB評価99% ○校長先生のグランドデザインや経営方針にある学校となるように教職員で協力して組織的に取り組むことができている。 ・保護者評価「わかる・できる授業」項目AB評価96% ・児童評価「授業のわかりやすさ」項目AB評価97%	A	・校長の学校経営理念が教職員にしっかりと共有されている。授業参観より、教員が「わかる・できる授業」に注力し、丁寧な指導を行っていることがわかる。明確な学校教育に対する運営構想がデザインされ、その効果が現れている。 ・校長を始めとした凡事徹底の精神が学校全体に行きわたっている。 ・学校経営方針をもとに、環境の変化にも対応しつつ、児童主体の教育活動に全ての先生方が取り組んでいると思う。保護者の方々の満足も高い。
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	A	○計画的に避難訓練や引き渡し訓練が行われている。機会に応じて、シェイクアウト訓練も実施されている。 ○報告連絡相談を密に行い、個人で対応するのではなく組織で対応できている。 ○怪我等があった場合、迅速に管理職に伝わり、確認等を行っている。 ・保護者評価「学校の安全面に対する配慮」項目AB95%	A	・事故やトラブルはほとんどなかったと認識している。大きな成果が得られている。 ・学校からの不審者情報はメールを用い速やかに行われる。さらに登下校の様子や状況を危機意識をもって発信してくれている。 ・登下校時の安全対策の実施、保護者と先生方との連携ができている。 ・危機管理は日常管理、定期的に行う訓練や研修はもろろんのこと、日頃から組織が有効に機能しているからこそ、保護者からの安全面への配慮への満足度も高いのだと考える。 ・避難訓練の時期や方法等、よく考えられている。
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	○個人でタイムマネジメントをして勤務時間の調整を行っている。会議の精選や業務内容の改善については今後検討していくべきことである。 ○児童の学力を維持していくために費やす時間については短縮してはけないと思っている。児童のためにやったほうがよいと思うことをやるとすると、時間がかかる。会議や研修等は、スリム化していただいていると感じている。	A	「児童のために」と思っでやっていたりしていることを大切にしてもらっている。児童の教育はすばりりと割り切れるものではないと思う。しかし、教員も労働者という意識をもち、限られた時間の中でさらなる努力を期待する。 ・教員が「今日は帰ります。」と笑顔で退勤している姿を見ると保護者としては安心して学校に通わせたいと感じる。
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	○各学年、発達段階に合わせて、机の配置を学習に合わせて柔軟に変えたり、ペアやグループでの活動を昨年度よりも多く取り入れることで児童の学びやすい環境づくりが進められている。 ・保護者評価「わかる・できる授業」項目AB評価95% ・児童評価「授業のわかりやすさ」項目AB評価97% ・各学力調査結果では、県・坂戸市平均を大幅に上回っている。	A	・授業参観の際に、授業に対する各教員の工夫を感じることができた。いつ授業を見ても、児童は落ち着いていて、かつ、前向きな気持ちで取り組んでいる。 ・日頃からきめ細かな指導を先生方が展開されていることを、参観した授業からも十分に感じました。実習に参加した学生からも聴いている。 ・授業の様子が一斉指導の机の並べ方ではなく、工夫され、対話しやすい環境をつくっている。ICTも活用し、わかりやすい授業が行われている。
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	A	○いじめ撲滅宣言や人権週間の取組など、充実している。 ○道徳主任が、道徳教育は授業だけでなく教育活動全体で行われることを確認するとともに、家庭を巻き込んだ取組も定着した共通理解のもと、共通行動が図れるようになってきている。 ・保護者評価「豊かな心の育成」項目AB評価97% ・児童評価「友達の関わり」項目AB評価98% ・児童評価「教師との関わり」項目AB評価94%	A	・教育活動全体を通じて、豊かな心の育成が進められているからこそ、子供たちは意欲的に学習に取り組むことができ、屈託のない笑顔が溢れているのだと思う。 ・笑顔・挨拶・感動を校長自ら教員に伝達し、学校全体で取り組んでいるのが良分かかる。 ・道徳教育で価値観を押し付けるのではなく、子供たち自身に考えさせ発表させる授業が為されている。 ・学校と家庭と協同で取り組んでいると感じる。
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	○委員会活動のあじさつ運動中心にあじさつが活性化されている。来校者からの評価も高い。 ○あじさつ言葉遊び等課題もあるが、全体的にとても落ち着いて学校生活を送ることができている。 ○挨拶は、「心の問題なので、無理強ひすることはできない。また、家庭の問題にも多く含まれる。 ・児童評価「学習への一生懸命さ」項目AB評価93% ・規律ある態度「進んであじさつや返事をする」項目AB86%	A	・参観の様子から子供たちは落ち着いて学習に集中できていると思う。 ・教育活動全体を通じて、豊かな心の育成が進められているからこそ、子供たちは意欲的に学習に取り組むことができ、屈託のない笑顔が溢れているのだと思う。 ・保護者、児童共に満足度が高く豊かな心を育む授業が実践され、それが学力の向上にもつながっていると思う。 ・来校すると職員や子供たちがいつも気持ちの良いあじさつをしてくれる。 ・挨拶や言葉遣いに対する意識は持ち続けてほしい。
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	○倫理確立委員会を定期的に行うだけでなく、職員事故の新聞記事等を適宜周知することで不祥事の未然防止に努めている。 ○明るく爽やかな職場である。これはまずいな、という感覚(基準)が共有されていると思う。 ○倫理確立委員会 13回実施 ○教師の同僚性がとても高く、お互いに支え合う風土がある。	A	・校長・教頭・教職員が一体化された共通認識のもとで、学校運営がなされていると感じる。 ・校長がすべての教室を回り、児童を把握する姿勢を見ることがロールモデルとなって学校全体で子供たちを見ており、それが事故防止にもつながっている。 ・風通しのよい明るい職場は、児童にとってもよい影響を与えると考えます。 ・登下校の見守りなど積極的にやっている教師の姿もある。
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切にしている。	A	○児童の人間関係を把握するための相關図の作成や、コグシの実施など児童同士が関わりあっている環境づくりが学校として取り組んでいる。 ・保護者評価「一人一人の児童を大切にしている」項目AB評価96% ・保護者評価「学校への相談のしやすさ」項目AB評価91% ・児童評価「教師との関わり」項目AB評価94%	A	・保護者・児童共に満足度が高く、学校に行くのが楽しいという児童が多いことは先生方の努力の結果である。 ・児童を何より大切に考えている環境づくりをしている。 ・教職員の児童への接し方が丁寧である。児童も教師に対して親しみを抱いている様子が見える。 ・hyper-QUや児童の生活アンケートなどを有効活用している。 ・保護者評価と児童評価の高さは教員の努力を伺わせるものだと判断する。
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	A	○特別支援コーディネーターを中心に就学支援委員会を定期的に設けることで一人一人の児童のよりよい成長に向けて組織で取組むことができている。 ○学校研究でも教室環境について考えることで共通理解を図って、ユニバーサルデザイン的な環境整備を行えるように取り組んでいる。	A	・授業参観時に子供一人一人の状況に応じて丁寧な授業が行われている様子を確認した。 ・特別支援教育制度の充実が重要な課題である。よく努力されていると思う。 ・個々の児童への対応がきめ細かいため、それが学級経営にも通じていると思う。 ・課題を明確にできることは現状分析ができている証である。
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	○清掃主任、養護教諭を中心に清掃用具の補充点検や学校の衛生環境の確認など細やかに実施されている。教頭先生、事務の主任専門員などを中心に備品の定期的な確認や廃棄補充を適宜行うことで環境整備ができている。 ○学校施設の老朽化の対応が必要である。 ・保護者評価「校舎内外の学習環境の整備」項目AB評価98%	A	・教育環境改善のための施策や老朽化した設備の補修は徐々に進められている。先生方の努力だけでは限界もある。行政と連絡を密に取ってほしい。 ・教育環境の整備にも心を砕かれているよう評価に値します。いつまでもきれいで清掃が行き届いていると感じる。 ・環境の充実や校内整備は学校運営上、安全を確保できるものと思うので、大切にしていきたい。
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	A	○各種便りによって、積極的に学校の教育活動について発信することができた。 ○ホームページを適宜更新し、最新の情報や不審者情報等を迅速に発信することができた。 ・保護者評価「地域に開かれた学校」項目AB評価99% ・保護者評価「学校教育目標・教育方針の発信」項目AB評価99%	A	・南小だよりは内容的にも充実しており、地域との連携に貢献していると思う。 ・夢道場・南小だよりや、メールを用いたの学外発信が良くされている。 ・ホームページの更新やだよりの発行により教育活動の内容がぐんぐんわかる。 ・夢道場・南小だよりは学校経営方針がわかりやすく表記しており、基本方針のもとに、子供たちとどのようなチャレンジをしているかがとてもわかりやすい。
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子ども問題解決を図っている。	A	○見守り隊や花壇ボランティアなど学校応援団として、多くの地域の方に参加頂いている。 ○2学期より読み聞かせを行い、徐々に人が増えてきた。子どもたちの喜びの声が保護者に伝わり、活動が広がっている。 ○ゲストティーチャーや筑坂、女子栄養大との交流を再開し、体験活動が充実してきた。	A	・地域と学校が一体化されつつあると感じる。 ・ボランティアの人々との連携は、地域の人々の学校教育への関心を高めることにつながっている。 ・より地域との交流を広げる施策があるとよい。自治会との組織的コンタクトなど。 ・花いっぱいな学校であり、学校の花壇はとても整備された状態である。作物づくりを通して地域の高校と交流が図れている。
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	○夏季休業中の合同研修などで職員の交流も進んでいる。 ○三校合同研修会等で情報交換を行い、共通理解を図って教育活動を行っていくことが大切。 ○連合運動会の練習や、芸術作品の展示などでの交流も行われている。 ○学びづくり研修会やその他、期間を設けての授業を見合う取り組みが、積極的に実施できている。	A	・各種の合同研修会を通じて職員間、学校間の交流が促進されていくことは、教育にとって重要である。 ・学校運営協議会に二人の中学校長が参画している。この体制を利用して、集中一貫教育の認識を共有する機会もあると考える。 ・児童生徒はもとより、家庭にも協力してもらいたいから進んでいく。 ・重点課題をさらに明確化し、到達目標を一層具体化することが必要である。